

平成28年度 佐賀県立佐賀東高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
校訓「使命に生きる」「自主自律を尊ぶ」「明朗清新を喜ぶ」の精神のもと、健全な社会の構成員として、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど、生きる力を育み、心身ともにたくましく活力に富み、感情豊かな人間の育成を目指す。	(1) 基本的生活習慣を確立させるため、全職員の協力体制のもとで生徒指導に当たるとともに、部活動の活性化に努める。 (2) 進路指導の充実を図り、生徒の進路希望の実現に向けたきめ細かな指導を行う。特に進学面ではより高い実績を目指す。 (3) 少人数学級編制導入後の成果と課題を踏まえ、その改善・充実に努めながら、魅力ある学校づくりを推進する。 (4) 保護者、地域、近隣の中学校等との連携を密にし、信頼関係を更に深めるとともに、本校の情報を積極的に発信する。 (5) ICT利活用教育について、電子黒板及び学習者用PCを扱うスキルを高め、メリハリのある授業に熟達すべく、自己研鑽に励む。

達成度

A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
① 基本的生活習慣を確立させるため、全職員の協力体制のもとで生徒指導に当たるとともに、部活動の活性化に努める。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	基本的生活習慣の確立	◇遅刻者の延べ人数を前年度より20%減少させる。 ◇特別指導の措置件数を減少させる。	○遅刻の増えそうな日には、事前に指導する。 ○特別指導が発生しないように、軽はずみな行動が自分自身や周りに大きな影響を与えることを、前もって認識させる。	B	遅刻者数を減少させることができなかった。今年度は、1年生の遅刻者が多く、来年度は入学して5月までの2ヶ月を重点的に指導することが必要。	雨天時や朝補習がないときなど遅刻者の増加が予想される時期には、担任より事前に起こりうる状況を考えさせることにより、余裕を持った早めの行動を心がけさせる。
		ルールの順守とマナーの向上	◇乗車マナー指導を各学期に1回以上実施する。 ◇駐輪場の整理整頓を指導する。 ◇オートライトの義務化を周知徹底する。	○毎朝の登校指導を行う。 ○各学期に1回以上、通学路にも職員を配置して指導する。 ○学年ごとに駐輪場を指定し、定期的にチェックする。 ○オートライト義務化を保護者に説明し、かつ自転車検査を行い生徒にも指導する。	A	昨年度より駐輪指導を具体的にやってきた成果が出て、クラスごとにきちんと駐輪ができています。また、外部からの自転車運転に関するクレームもなく運転マナーを守っている。	今年度の成果を持続できるよう、新入生への指導を重点的に行うことにより定着を図りたい。
		部活動活性化の推進	◇部活動の新入部員入部率を80%以上にする。 ◇ボランティア活動に積極的に参加する。 ◇HPの部活動の欄を充実させる。	○部活動紹介や体験入部の内容をより豊かにすることで、入部を促す。 ○ボランティア活動の案内や参加を積極的に促す。 ○新しい情報を頻繁に発信する。	B	1年生の入部率は、81.6%となり目標の80%を上回ることができた。ボランティア活動については、地域の川掃除、北川副地区行事のお手伝い、さくらマソン補助員等、例年通り多くの活動に参加した。HPの欄は、随時更新することができた。	どの目標にも共通する向上策としては、情報発信をより積極的に行い、参加を継続的に根気よく促していきたい。
		人権・同和教育の推進	◇すべての生徒が差別を許さず、差別をなくしていく民主社会の形成者となるよう、その育成に努める。	○落ち着いた学校生活を送れる雰囲気作りを確保していくために、全職員で生徒の指導にあたる。 ○十分な職員研修を行い、万全の態勢で人権・同和教育のHR活動等を実施する。	B	研修やLHRの実施については、定着が見られて事前の準備、打ち合わせ等スムーズ行うことができた。生徒の反応を期待通り引き出すことができたように思われる。今後は生徒指導部や教育相談担当等との連携も積極的に図っていきたい。	年度当初にLHRの年間計画を立てたが、学年毎に内容が異なると調整が難しくなるので、日程の調整をしやすいLHR計画を立てたい。2学期は教育センターのDVDをもとにクラス単位で人権学習を実施したが、生徒も真剣に受け止め、すこぶる好評であった。今後は講師依頼等佐賀市の事業も利用したい。
	●健康・体づくり	清掃活動及び健康増進の充実	◇学習活動に適した環境づくりを推進する。	○校内美化に努める。 ○ゴミの分別及び持ち帰りを徹底する。 ○美化情報等を適時に発信する。	A	各クラスに分別用のごみ箱を配った。また掃除の時間に、美化会員がごみの分別の手伝いをした。生徒総会などを通して、環境美化を呼び掛けた。卒業式に向けて正門周辺に花を植えた。	今年度の成果を持続できるよう、新入生への指導を重点的に行うことにより定着を図りたい。
		教育相談活動の充実	◇担任や保健室と連携して、困難を有する生徒の状況を把握し、早期の支援に取り組む。 ◇外部機関との連携を図る。	○欠席や欠課を確認し、学校生活に集中できない状況が見込まれる生徒に、カウンセラ面談などの支援を積極的に働きかける。 ○校外の医療機関や専門機関と連携して、個々の生徒の状況に応じた支援を行う。	B	欠席・遅刻・保健室利用の状況と、スクールカウンセラーの活用は、1年生のおいてある程度実現できたが、他学年は1年生ほどではない。医療機関との情報交換例は数件あり、適切な対応に繋がった場合と、連携に手間取ったケースとに分かれた。	欠席、遅刻の多い生徒について、定期的に情報を共有する会議の設置を検討する。保護者に対して、カウンセリング、発達障害等に関する情報提供の機会を増やす。
	●いじめの問題への対応	組織的な対応	◇いじめの未然防止に努める ◇いじめの早期発見、早期対応、被害の最小化に努める。	○ホームルームや生徒会活動、教科指導等を通して、いじめ問題への対応や好ましい人間関係等についての適切な指導を行う。 ○いじめの覚知やいじめの認知に至った場合は、速やかに調査委員会や体罰・いじめ防止委員会等を招集して対応し、被害の最小化に努める。	B	いじめの対応についてやや遅れ長期化したケースもあったが、昨年以上に個々の事案について組織的に取り組み対処することができた。いじめの覚知・認知について適宜委員会を招集し、丁寧に対策を話し合った。いじめ防止講演会を2回開催し、生徒及び教職員の意識を高めることができた。	いじめの覚知・認知について、教職員の意識を改め、疑わしいものは小さなものでも拾い上げることで、いじめの早期発見、対応に努める。学年会などの場を利用して、生徒個人の情報を共有し、いじめの未然防止に役立てる。いじめ防止強化月間の取組を工夫する。
② 進路指導の充実を図り、生徒の進路希望の実現に向けたきめ細かな指導を行う。特に進学面ではより高い実績を目指す。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路指導	進路意識の向上	◇3年間を見通して段階的に継続的な取り組み、主体的に進路を選択できるようにする。	○各学年の進路指導計画のもとに、各種ガイダンスや講演会を行い、事前事後指導を行うことで、進路に対する意識と理解を深める。 ○個人面談などを利用して、生徒の志望や気持ちを整理させる。	B	各学年とも、各種ガイダンスや講演会を利用して、生徒の進路意識を高めることができた。進路希望調査でも、意識を向上させている動きが見られた。個人面談についても、模試の申し込み及び返却、進路希望調査など、ことあるごとに担任を中心に面談をしていただくことができた。	教材を利用して、各種ガイダンスや講演会を結びつけ、生徒が1年間ないし卒業までの取り組みの流れを意識しながら活動できるようにする。また、進路検討会を利用して指導担当者の思いを一つにまとめ、学年全体、学校全体で生徒を指導する環境作りをする。
		進路希望の実現	◇国公立大学に5名以上、難関私大(福大を含む)に10名以上合格を目指す。 ◇就職希望者全員の就職を実現する。	○的確な入試情報の提供を行い、合格に必要な学力を身につけるための支援をする。 ○1年次から土曜講座や模試対策を計画的に実施し学力向上を目指す。 ○就労意欲を自覚させ、面接・マナー指導や就職試験対策を綿密に行う。また、会社訪問を適宜行い、求人の開拓を目指す。	A	国公立大については、AO・推薦入試から積極的に受験をすることができた。センター試験を利用する推薦入試にも出願し合格者を出すことができたのは、指導担当者の分析の成果ともいえると思われる。一方で、私大の受験については、やや消極的な面も見られたのではないと思う。就職については、きめ細やかな指導がよい結果につながった。	入試改革を先取りする形で、徐々に変化しつつある部分の情報を早期につかみ、対応する必要がある。情報誌や研修会を利用して担任や生徒や保護者へ情報提供をする。土曜講座や模擬試験を効果的に実施するために、授業の進度とリンクした計画を立案する。就職希望者については、基礎学力の向上とマナー指導に加え、就労意識を高めるための計画を立てる。
③ 少人数学級編制導入後の成果と課題を踏まえ、その改善・充実に努めながら、魅力ある学校づくりを推進する。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策

教育活動	●学力向上	基礎学力の充実	◇授業の充実や家庭での学習習慣の定着を図り、意欲的に学習に取り組ませる。	○講演会等を通して、学ぶことの大切さを理解させる。 ○授業見学や授業研究を頻繁に行い、授業を充実させる。また、小テストや宿題等を増やし、家庭学習の定着を図る。 ○補習や土曜講座等を有効に活用し、学力の定着を図る。	B	各種の進路ガイダンスだけでなく事前事後指導を通して、約80%以上の生徒が進路に対する意識と理解を深めることができた。また、個人面談等を行い、進路意識の向上を図った。	ガイダンスや講演会だけでなく事前事後指導をうまく取り入れることで、意識は向上させることができた。次年度も継続していくことが必要である。また、個人面談を活用するためのしかけ作りは急務である。
		個に応じた指導の充実	◇学力層に応じた指導を計画的かつ継続的に実施する。	○授業や課題などを工夫して、到達目標を明確にする。 ○定期考査などを活用して、到達度を測る。また、事後指導や面談などを利用しながら、フォローアップを行う。	B	各種情報を的確に提示することで、目標に近づくための支援をすることができた。また、就職希望者に対しても様々な支援をすることができた。その結果生徒は希望する進路を達成することができた。しかし、国公立大学・難関私大ともに数値目標は残念ながら達成することができなかった。	3年間を見据えた計画的・系統的な指導が必要であり、特に1年次の指導の重要性を再認識して、指導していくことが必要である。そのために、定期考査や模試の分析、研修会を通して生徒の実態を把握し、改善に取り組む。

④ 保護者、地域、近隣の中学校等との連携を密にし、信頼関係を更に深めるとともに、本校の情報を積極的に発信する。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知及び達成に向けての推進	◇生徒・保護者アンケートにおける校訓や重点目標の認知率が40%を上回るよう周知に努める。	○学校HPや学校だより『飛翔』等、生徒・保護者向けに発信する媒体を通して、重点目標が分かりやすく伝わるよう工夫する。	B	生徒対象のアンケートでは、認知率が43%となり前年を大幅に上回った。保護者アンケートにおいても認知率は上昇している。本校の教育活動が生徒・保護者・地域の皆さんに評価されてきた証拠である。	引き続き、さまざまな媒体を通して、生徒・保護者への周知を図るとともに、伝えやすくするために、平易な表現を使うよう心がける。
	○開かれた学校づくり	地域社会との連携	◇地元自治会等と連携し、地域主催行事への協力等を通して、地域社会における信頼感の醸成に努めるとともに、参加生徒のボランティア体験を推奨する。	○主要な行事ごとに部活動単位で協力を募り、地域社会との連携を深める。 ○参加した生徒や部活動を学校だより『飛翔』や学校HPで紹介し、その活動意義の周知を図る。	B	地元自治会との連携は概ね図れた。協力依頼があった行事等へは、参加することができた。また、校外における生徒の活動状況等を『飛翔』や学校HPで紹介することができた。	地域社会からの協力依頼のある行事は、実施時期や要請人員がほぼ決まっているので、年度当初に各部活動に協力依頼をしておき、各部活動が年間の活動計画の中に組み込めるよう配慮する。部活動以外の生徒の参加を奨励する。
		地域・保護者への情報発信の推進	「飛翔」(学校だより)を年10回以上発行し、学校HPの内容を充実する。	○保護者、学校評議員、地元住民に配布する。 ○佐賀市周辺の中学校へも配布し、掲示を依頼する。 ○SEI-Netの活用を通してHP更新作業を頻繁に行う。	A	SEI-NETを活用したホームページにより適度な情報発信に努めた。「飛翔」については中学校等への配布を考慮し、ビジュアル性が高く、読みやすいものを作成することができた。	「飛翔」は次年度も引き続き内容をさらに工夫しながら発行したい。SEI-NETを活用したホームページについても、素材、情報の収集に力をおき見やすいホームページを更新していきたい。

⑤ ICT利活用教育について、電子黒板及び学習者用PCを扱うスキルを高め、メリハリのある授業に熟達すべく、自己研鑽に励む。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	電子黒板及び学習用PCを扱うスキルアップの推進	◇すべての教職員が、電子黒板及び学習用PC等のICT機器を活用した授業を展開できるよう、校内研修等とおしてスキルアップを図る。	○職員全体でのICT利活用研修に加え、教科ごとの研修会を実施することで、すべての教職員が効果的なICT利活用教育を実践できるよう、スキルの向上を図る。	B	長期休業中を中心にICT利活用研修を実施し、電子黒板と学習用PCの連携スキルを向上させることができた。研究授業はもちろんのこと、全教科すべての授業で電子黒板の利利用率はほぼ100%である。	毎日の授業に加え、小テストや家庭学習など、学習用PCの利利用率が向上している教科もある。教師個人のスキルの差はあるが、少しずつでもさらなる効果的な授業実践が行えるようOJTをとおして研鑽を深めていく。
		ICTを活用した授業の拡充	◇電子黒板及び学習用PC等のICT機器を活用した授業を積極的に展開する。 ◇校務支援はもとより、授業においても、SEI-Net及び授業支援ソフト等の利活用を進める。	○毎時間の授業において、ICT機器を活用した授業を展開する。 ○学校行事等やその企画において、ICT機器を活用した取組を進める。 ○SEI-Net及び授業支援ソフト、デジタル教科書等のより一層の利活用を図る。	B	毎時間のすべての教科で電子黒板は利活用されている。また、体育祭文化祭や学年集会等において率先してICT機器を活用できている。また、SEI-Netの校務管理機能についても、フルに利活用できるまでに至った。	次年度は電子黒板および学習者PCのさらなる効果的な利活用について教職員のスキルアップを図りたい。また、デジタル教材・SEI-Net等の校務支援・授業支援ソフトについて校内研修会等をおとして、更なる効果的な利活用ができるようにしたい。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 食育の推進	◇保健指導や家庭科・保健体育科等の授業を通して、健康についての自己管理能力を高める。	○朝食摂食率90%を目指しつつ、「保健だより」や委員会活動、LHR活動等を通して食事内容の充実についても促す。 ○生活習慣アンケートの結果を踏まえて、情報発信を行う。 ○食育に関する講演会を実施し、生徒の食に関する意識を高める。	B	朝食摂食率は目標値に近い数値となっている。今後は、食事内容内容の充実に向けた取り組みを実施していきたい。 1年生への『食育講演会』は、家庭基礎の授業で食分野の学習をしている時期と重なったので、生徒の意識づけに効果的であった。	食事内容の充実については、家庭科や保健体育、LHRの時間を活用して指導をしていきたい。 「食生活」に関する情報発信を「保健だより」や生徒保健委員会を活用してもっと充実させていきたい。
	○図書館教育	読書活動の推進	◇図書館の機能を充実させ、生徒の教養・価値観・感性等の幅を広げ、進路実現に役立てる。 ◇社会生活において個人の指針となるものを読書を通して提供する。	○図書委員により図書館活動の企画・実践を行う。 ○学習者用PCを利用して図書選定リクエストの実施等を行い、それによって図書館利用者および貸出冊数の増加を図る。 ○読書以外でも、学習場所や進路指導の場として図書館を開放する。 ○特別活動における集団読書指導を年に2回実施する。	B	毎月の図書館便りの発行、図書貸出状況、学習用PCを利用した校内読書会図書選定、図書委員の活動状況等、概ね前年度並みに達成できた。また、昨年度よりも貸出図書数がかなり増加した。特に今年度は、3年生による学習の場としての利用が大幅に増え、またそれらの3年生の成績の伸びも顕著であった。	教室にいつらい生徒の居場所、先生との面談場所としてのはたらきのほか、今後読書推進という本来の図書館のあり方をさらに工夫したい。
学校運営	○教職員の資質向上	職員研修の充実	◇授業公開や授業参観、教科ごとの教材研究会・研修会、ICT利活用教育研修会等を通して、絶えず自らの授業改善に努める。	○各学期に1回以上は授業の公開、もしくは授業の参観を行う。 ○校内外における研修の機会を積極的に活用できるよう、情報提供と環境づくりに努める。	B	ICTサポータやICT支援員の活躍もあり、ICT利活用教育の授業公開および教科ごとの研修会は頻繁かつ盛況に行うことができた。校内外における研修への参加者も、多くみられ、生徒たちからの評価も高かった。	学習用PCの効果的な利活用や、SEI-Netのさらなる利活用等、情報機器の利活用についての全職員対象の研修や教科ごとの研修会、授業公開を頻度を高めて実施する。
		教科指導力の向上	◇職員個々の教科指導力を高めるための自己研鑽を奨励するとともに、職員相互の情報共有を図る。	○大学入試問題の傾向や特徴、変更点等について、絶えず情報を更新するとともに、授業や進路指導へのフィードバックを図る。 ○教科会議等を通して各教科内における情報の共有化を図る。	B	外部機関の職員研修を案内し、積極的に参加いただき、各教科で共有をしていただいた。一方、大学入試問題の傾向の変化等についての情報提供は十分な量ではなかったように思われる。	各教科で大学入試問題研究等を実施していただいて、入試問題の傾向の変化を分析する機会を設ける。入試改革の情報をできるだけ早期に指導担当者へ伝達し、問題の傾向の変化を読み取りやすくする。また、外部機関を利用した教員研修への積極的な参加を促していく。

4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組

本年度11月に実施した学校評価アンケートでは、生徒の81%、保護者の85%が「生徒は、本校の学校生活にととても満足している」と答えており、本校の教育活動について概ね好評価であった。ルールの遵守とマナーの向上など、基本的な生活習慣を確立させるために全職員で指導に当たり、職員の協力体制ができていた。部活動でも活躍がめざましく、本校の活性化に大いに役立った。また、地域に情報を発信し、ボランティア活動などをおとして地域社会との連携に努めるなど、地域の活力を生かした教育活動にも進んで取り組んだ。これからは、少人数学級編制導入の成果をさらに生かせるように、個々の職員の教科指導力やICT利活用の技術を高めるとともに、生徒の進路目標実現に向けたきめの細かい指導を行える体制づくりを工夫し、魅力ある学校づくりに努めていきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目